

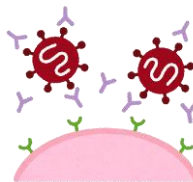
五常

編集発行
コミュニティ協議会
広報委員会

人口
7,786人
世帯数
3,227世帯
令和3年3月現在

コロナと共存

免疫力を高めよう！



新型コロナウイルスに明け暮れた2020年度も、そろそろ終わりに近づいて来ました。

当初は、有名芸能人の死が相次いだこともあり、かかったら最後の恐ろしい病気という印象が強く、ほどなく一億総マスク化の社会になってしまいました。

ただ、この一年の間に新型コロナに関する知見は確実に増え、健康な若年層にとっては、感染力の強い風邪程度の毒性しか持たないことが、分かって来ました。

コロナだけではない

わが国では、冬ごとに流行する季節性インフルエンザでも、直接・間接に、年間約1万人の死者が出ています。決して新型コロナだけが、特別なわけではありません。基礎疾患をかかえ、免疫力が弱

った体には、どんな細菌／ウイルスも、等しく脅威なのです。

陽性者≠感染者？

マスコミでは、PCR検査陽性者数を感染者数として、飽きることなく事細かに報じ、国民の不安を煽り立てました。しかし、PCR検査は、特定の遺伝子構造を検出する技術に過ぎず、見つかった遺伝子のカケラに、感染力があるかどうかは判定できません。免疫との戦いに敗れたウイルスの残骸などにも反応してしまうのです。したがって、陽性者≠感染者という認識は、正しいとは言えません。

ワクチンは慎重に

日本国内でも、すでにワクチン

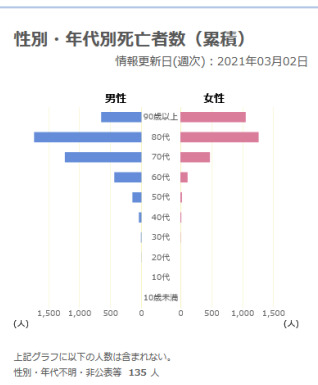
接種が始まりましたが、弱毒化したウイルスを用いる従来型とは違い、DNAまたはRNAなどの遺伝情報を直接体内に注入する、人類がかつて経験したことのない試みです。ゆえに、副反応(副作用)や、人体への長期的な影響は、専門家にすら予測が付きません。

人口あたりの死者数(表1)が日本の20倍以上の欧米諸国では、リスク以上の効用が期待できません。ただし国内に限っては、医療従事者など職業上不可欠な方を除けば、まずは日光浴、適度な運動などで、自身の免疫力を高める方が、先決ではないでしょうか？

情報収集は広く

最近の新聞・テレビには、そうした問題提起が、まったく見られません。インターネットやYouTubeなどは、目からウロコの情報であふれています。すべてを鵜呑みにするのは危険ですが、信用できる情報をより分け、的確な判断を下すことこそ、なにより大切かと思えます。

・図1:厚生労働省HP
・表1: Reported Cases and Deaths by Country or Territory (Worldometer) より
・参考資料:「本当はこわくない新型コロナウイルス」(井上正康)



【図1】データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報—より

★ 四中通信

第四中学校教頭 野口 明郎

(1) 中学校の様子

現在も感染防止の取組を進めながら、子ども達は落ち着いた様子で日々の学習に励んでいます。そんな中で、本校ではキャリア教育の一環として行っていた、1年生の「職業インタビュー」、2年生の「職業体験」も、1月に例年とは違った形で実施しました。



1年生は、ドコモの方とオンラインで7クラスをつなぎ、職業講話を行いました。「仕事」についてだけでなく、「将来どう生きるのか」考

えるきっかけになりました。2年生は職業インタビューとして、オンラインまたは、書面でのご回答をお願いしました。オンラインで



は、少人数であったこともあり、素朴な疑問に回答いただけたり、本来は入れない場所を見ることができたり、普段以上に中身の濃い時間になりました。



3年生は、社会の授業の一環として、市の職員の方に来校いただき、出前授業を行いました。三年後には有権者となる3年生に1人の市民として、自分たちが生きていく社会の現状を少しでも知り、自分自身がその当事者として、その解決方法を考えていく力を卒業までにつけて欲しいという願いを込めて企画しました。

年度当初の計画とは違った一年でしたが、その中でできる事を考えて取組めたことで、深まったものもあつたように思います。本校の様子については、12月よりブログで発信しています。よろしければ、そちらでもご確認ください。



四中ブログ : <https://www.12.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=c20200163>

(2) 第四中学校区 地域教育協議会

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、予定していた取組がほぼ出来なかつたため、例年の取組を紹介いたします。

【清掃大作戦】毎年12月に中学校の外周りを中心に清掃活動を行っています。クラブ単位で参加することが多く、昨年度は生徒だけでなく保護者の方も含め、250名以上の参加がありました。



掃除が終わった後は、地域協で作った豚汁を食べて温まりました。【クラブ体験】校区の小学校6年生を対象に毎年10月、11月にクラブ体験を行います。保



険をかけているので、安心して活動してもらっています。この体験を通じて、中学校に進学する実感を少しでも感じてくれているのではないかと思います。



【講演会】毎年2月頃に地域協の会員や本校のPTA本部や教職員を中心に講演会を実施しています。これは、急速に変化する社会の中で、今学校に

求められることや子ども達に必要な力が何なのか…課題や取組を共有することで中学校と地域が今まで以上に一体となっていきたいと考え取組んでいます。他にも、中学校と連携し、あ



さつ運動を行うなど普段から地域として子どもたちを見守っています。

★ 五常小通信

タブレットで学ぼう



枚方市内の小中学校では、文科省のGIGAスクール構想や、新型コロナウイルスの影響もあり、一人に一台タブレット端末が配布されました。もちろん五常小学校もその例に漏れません。

各児童には、固有のアカウントが割り当てられており、学習用のアプリ「ロイノート」に、そのアカウントでログインします。



タブレットを使った授業風景

ローマ字をまだ習っていない学年の子どもたちは、馴染みのないアルファベットを入力するのに、ちよつと苦戦しましたが、今ではバリバリ使いこなしているようです。

こんなに小さな頃から情報機器に親しんでいれば、パソコン・ア

レルギーになど、なりようがありません。書いたり話したりするのと同様に、機械を操れるようになるでしょう。

タブレットでは、課題を解いて先生に送ったり、教室でみんなの答えを並べて意見を交わしたりすることも可能です。

近い将来、教科書も電子化されるようですし、



そうならば、小さな背中にパンパンにふくれあがった重いランドセルを背負って

通学する、なんて必要もなくなりますね。

充電は家庭で行う必要があるため、うっかり忘れて来る子が絶えませんが、そのうちタブレットが「わたしを忘れないで」と語りかける、忘れ物防止機能も搭載されるかも知れません。

五常小学校でも四中同様、ブログを頻繁に更新し、学内の様子を積極的に発信しています。

下のリンクから、ご覧ください。



五常小ブログ : <https://www12.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=c20200120>

見守り隊の皆さんへ



3月3日(水)のひなまつりに、五常っ子見守り隊の代表の方々に感謝状の贈呈が行われました。

今年も卒業を間近に控えた6年生たちが、クラスごとに、3冊のブックレットを作ってくれました。



すると、自然に「さよなら」と声が出て、ふっと心が軽くなる、というものがありません。

見守り隊の方たちが、見守つて下さったのは、身の安全だけではないので、これからも子どもたちを、よろしくお願いたします。



感謝の言葉がぎっしり

卒業を祝う花



今年も新型コロナウイルス感染症に配慮して、卒業生を祝うお餅つきは中止になりました。

重い杵を抱きかかえるようにして、へっぴり腰でお餅をつく子どもたちの姿と、紅白の丸餅のお相伴にあずかるのを楽しみにしていたのですが、返すのが残念です。



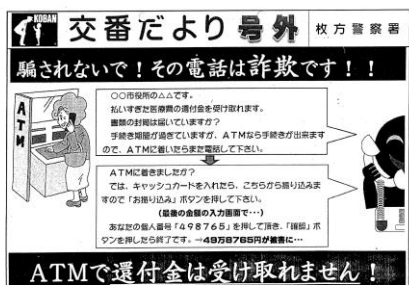
昨年度のお餅つき

せめてものはなむけとして、卒業式の前日に、花を贈ることにしました。

卒業生の皆さん、「卒業おめでとう！」



ガーベラの花言葉は「常に前進」



枚方警察署 : 845-1234

消費者ホットライン : 188 (いやや!)

その電話 詐欺かも!

枚方市内では、特殊詐欺が相変わらず多発しています。

固定電話で携帯の番号を聞き出し、携帯で通話しながらATMへ誘導するのが、典型的な手口です。知らない人には、安易に携帯番号を教えないようにしましょう。

「〇〇が△△できるのは、今だけ」など、期限を切って行動を促すのも、詐欺犯の常套手段です。怪しいと思ったら、いったん電話を切って、身近な人や警察、消費者ホットラインなどに相談してください。

最近は新型コロナがらみの悪徳商法も増えています。電話やメールで、甘い話を聞かされても、無視しましょう。



ワフよさらば!!



2月1日、とんど祭りのために準備した藁を処分しました。せつかく「交野おりひめ大学酒づくりの会」の方々のご好意で、寄付していただいたものです。来年も確保できる保証はないので、なるうことなら取って置きたかったのですが、虫がわく可能性が高く、長期保管は断念しました。体育館倉庫をずっと占有しておくわけにも行きませんし。



来年は表舞台で

というわけで、大半はゴミとして廃棄、一部をガーデニングや家庭菜園を趣味とされている方に引き取っていただきました。

ワラには、地面の温度を調節したり、肥料の流失や雑草を防いだりする働きがあるので、園芸には欠かせないものだそうです。勉強になりました。

とにかくわづかながらでも、目の見せられたのが救いです。

お詫びと訂正



昨年9月発行の本誌58号2面、「コミュニティ・スクールについて」の中で、学校運営協議会委員の構成に、誤りがありました。左記のとおり、訂正いたします。

学校運営協議会委員は、コミュニティ協議会より2名、PTAより1名、学校有識者として元教員2名の5名で構成され、校長・教頭が学校側として会議に出席しています。

尚、枚方市ならびに当協議会のホームページに掲載中のバックナンバーについては、欄外に訂正を施しました。

ご指摘下さった方に、深く感謝すると共に、読者の皆さまには、お詫び申し上げます。

ウイズコロナ 機関紙コレクション

広報ひらかた2月号に、本誌56号がちらりと紹介されています。枚方市のHPでは、もう少し詳しく取り上げられていますので、一度のぞいてみてください。

第12回「煙突山さくらまつり」

2021年4月3日(土) 11:00~15:00

会場 : 煙突山(妙見山配水池)

協働 : 枚方市・人権政策室

※場内での、喫煙・飲食はできません

※ペット同伴は不可とします

※入場の際は、マスク着用をお願いします

※ご休憩は、五常会館[隣接]へ

(ゴミは必ずお持ち帰りください)

※駐車場はありません

編集後記

今回は巻頭に新型コロナ特集を組んでみました。皆さまも思うところや、物申したい気持ちは、あふれんばかりかと思えます。今後も広く情報を集め、正しい知識を身につけて行きましょう。

さくらまつりだけは、なんとか実施したいですね。(広報委員会)